

# 長崎県の美しいまちづくり

## 屋外広告物編



「屋外広告物」とは、簡単に言うともちなかでよく目にする「看板」のことです。屋外広告物は、情報を伝えるだけでなく、地域の景観や人々の生活に大きな影響を与えます。大自然の中や閑静な住宅街に、巨大で派手な広告物が建つと景観が壊れますし、倒壊による住民への危害や、交差点の見通し不良などによる危険も考えられます。

これらの防止のため、長崎県屋外広告物条例では、必要な規制などを行い、良好な広告景観を目指しています。

しかし、規制だけでは地域の良好な景観は築けません。地域住民がルールを決めて高い意識の中で景観づくりを行うことが重要です。

そこで県では、広告物と地域の景観との調和を図るため、条例に「広告景観モデル地区」を定めて良好な景観づくりを積極的に進めています。

現在、島原市・大村市・平戸市においてモデル地区を指定し、その一部では県の助成も行っています。地域で合意した基準に沿って「看板」等を整備することにより、全体として統一感が感じられる一方で、細かいところにそれぞれ個性が漂っていて、訪れた人を楽しませてくれます。モデル地区にある広告物の写真を記事の周りに集めてみました。また、以下にモデル地区の部を紹介いたします。



①

まずは島原市森岳広告景観モデル地区。島原城から島原駅に続く七万石坂を下ると、徳川時代からの城下町として栄える森岳地区があります。

金物店では、外壁に立体的に描かれた龍の彫刻と並んで木製の風格ある広告物が店内の雰囲気を引き立てています(写真①)。地内の広告物は、基本的には石、木、竹、布などの天然素材で作ることとしており、涼しげな湧き水と相まって城下町の昔ながらの



②

霧囲気を演出しています。

続いて平戸市城下町地区広告景観モデル地区。古くから海外交流の要所として和と洋が交じり合うまちなみ、観光名所として寺院と教会が見える風景は有名です。

昨年9月に復元されたオランダ商館から城下町地区へ足を踏み入れると、板張りで昔の雰囲気たっぷりの町屋が軒を並べ、その店先には職人の腕が光る広告物が我々を出迎えてくれます。よくよく見ると船具店の広告物をかけている金具がイカリの形をしていたり(写真

②)、酒造場の広告物が酒樽そのものだったり(写真③)と、ユーモアとセンスが組み合わさって、思わず顔がほころんでしまいます。

あなたの住んでいるまちにも、心くすぐる広告物がきっとあります。まちなみ散策をしながら、自分のお気に入りの広告物を見つけてみてはいかがでしょうか。(景観班/世知原)



③

